

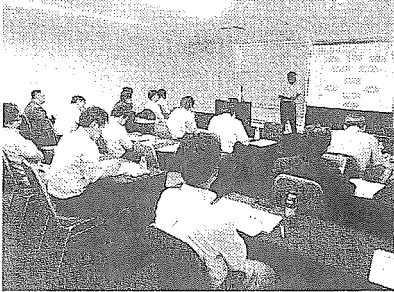
農機国際規格のセミナー開催

ISO や機能安全規格など紹介

ウィッツ

(株)ウィッツ名古屋市 9 を T K P 札幌駅カン
中区栄 2-13-1・80 ファレンスセンターで開
52(220)1218 催した(写真)。

は17日、農業機械の国際規格適合に関する無料セミナー「ISO-BU S & 機能安全 2511



19を中核に苦小牧高専や北大、はこだて未来大学と共に経産省の戦略的基盤技術高度化支援事業(平成26(28年)に於いて「農業機械のさらなる高度化と海外進出に資する次世代電子制御ソフトウェア基盤の開発」を行っている。農業機械通信

いる規格。一方、機能安全は、おそらく近い将来これに対応しないと売れなく時代が必ず来るそう
で海外の主力メーカーは対応に向けて積極的に取り組んでいる。国内でのこうした取組は心強い。標準化に則った開発は競争力強化に繋がると信じている」と述べた。

「農業機械のさらなる高度化と海外進出に資する次世代電子制御ソフトウェア基盤の開発」を行っている。農業機械通信外で導入が進み拡大して

規格 ISO 11783 や 農機向けの機能安全規格 ISO 25119 に対応したシステムとして電子制御化・営農管理システムとの連携・安全性を確保かつ低コスト化した農機向けプラットフォームの開発や次世代向け要素技術の研究開発を行っており、今回はそれに関連した基本概念や国際規格等について説明したものの。冒頭、アドバイザーを務める中央農研の元林浩太主任研究員が挨拶し「ISO-BUSは、国内に標準コンポーネント仕様が定まれば、相互的組

み合わせが可能となり、各社は機能などの部分に特化した開発で競争する方向にある。日本固有の使い方などについて A E F などで声を上げるべき。その為には企業の垣根を超えて協力できる部分は協力すべき」と述べた。

「国際的に当たりに前になりつつある機能安全とは？」について(株)アトリエの水口大知氏が講演し「機能安全とは、ある機能によりリスクを軽減する安全機能と、そうした機能が定められた期間や全ての定められた条件下で、ハードウェアやソフトウェアの故障や設計ミス等を回避し、規定の安全機能が働くかの

水準(SIL1~4)で規定される安全度から成る。リスクアセスメント(リスク分析)や安全ライフサイクル(企画から廃棄までの安全確保)を行いリスク低減を行うのは必須だ。その中で自己診断不能な危険な状態における故障を無くす」とした。

その後の講演では ISO 25119 の対象として、トラクタや自走式の乗用機械、搭載/半搭載/牽引される機械、地方自治体で使用する機器で、ハードウェアやソフトウェアの機能安全規格であることや、規格の説明。そして高度化支援事業を説明し会は終了した。